

各 位

2017年7月24日

株式会社天夢人

<http://temjin-g.com/>

『SINRA』2017年9月号が発売！ 特集「ホッキョクグマを救え！」

インプレスグループで出版事業を展開する株式会社天夢人（本社：東京都港区、代表取締役社長：唐島夏生）は、2017年7月24日に『SINRA』9月号を発刊しました。

【特集】

ホッキョクグマを救え！

～北極圏から考える地球の未来～



近年の気候変動や大気汚染による地球温暖化で、生態系への影響が問題となっています。なかでも、地球最大の肉食動物ホッキョクグマが生息する北極圏は、世界各地で発生するダイオキシンをはじめとする有害化学物質などが気流によって集まる場所でもあり、環境委や生態系への影響が顕著にあらわれ、遠く北極で起きている問題は、私たちの環境とも密接な関係にあります。

特集では、象徴ともいえる北極圏、ホッキョクグマの現在をとらえ、さまざまな角度から地球環境の未来を考えます。

案内人には、カナダ人で環境問題に詳しい上智大学地球環境学研究科教授、あん・まくどなるどさんを迎え、極北の人々の変わりゆく暮らしの様子をエッセイで綴っていただきます。長年、極地へ足を運び取材してきた先生ならではの視点で、地球環境の未来に警鐘を鳴らします。

巻頭では「極北の生命 ホッキョクグマ」では、北極圏の自然や野生動物などを撮り続ける写真家・浅尾省五のホッキョクグマのスペシャルグラフを紹介。

また、SINRAの旅ではカナダ建国150周年を記念し、北極圏を取材。ホッキョクグマの首都といわれるチャーチルからイヌイットの町・ランキンインレットを訪ね、人々の暮らしや環境変動の様子をルポしています。ホッキョクグマとともに共存する彼らの知恵と歴史、未来を探ります。

さらに、星野道夫が見たアラスカ・北極圏の大自然の迫力をビジュアル紹介。今なお色褪せない彼の極地への想いが見えてくるはずです。

その他、北極圏、ホッキョクグマをテーマにさまざまな角度から今直面している問題を考えます。

地球温暖化で、まさに歴史的猛暑に突入した日本列島。その現場ともいえる極北の環境と生態系に思いをめぐらせ、身近な問題としてぜひあらためて考える特集です。

【巻頭特集エッセイ】

「北極圏、地の果ての四季

～人は亡命できるが、動植物は逃げられない。」

案内人あん・まくどなるどさんが、北極圏の四季の自然の移り変わりと、そこに生きる人間と動植物たちの現在、そして未来への環境に危機感を募らせ、思いをめぐらせます。

夏

北極圏の夏はつづきの開きの。それは、一日中、太陽が地平線の下に消えることのない、白夜の気候のこと。だが「夏が来た」と思った瞬間、暖夏は移り変わる。今では北極光が、夜を染める。日本の夏は明けの暁で季節の移り変わりを感ずるが、北極圏では空が季節の移りを告げる。



カナダの北極圏、夏は明けの暁で季節の移りを告げる。

春

北極圏の春は圧倒的だ。3月下旬、半年ぶりに北極圏の上に太陽が昇る。一瞬にして暗黒の世界からキラキラとした世界に変わる。あれから17年が経つ。私が生まれ育ったカナダの北極圏の町、アムステルダムは、2000年の春、1歳を過ぎ、カナダ連邦政府との長年に行ってきた交渉を経て、イヌイットに自治権が与えられた。1999年4月1日に誕生したイヌイットの国、ヌナブタはイヌイットの母国であるヌナブタ・イヌイット語で「我々の土地」を意味する。17年経った。あのときの北極圏の匂い、土の感触、どこまでも続く真っ白な風景が心に焼き込まれている。360度の空の中を自由に飛ぶ人々の声。それらの記憶が今も私の胸に響きわたっている。イヌイットが暮らす北極圏の春は、どこまでもほっと、清々とする。



カナダの北極圏、アムステルダムは、2000年の春、1歳を過ぎ、カナダ連邦政府との長年に行ってきた交渉を経て、イヌイットに自治権が与えられた。

北極圏、地の果ての四季
人は亡命できるが、
動植物は逃げられない。

著者 あん・まくどなるど
（写真：浅尾省五）





夏のナナト帯州は、凍結を過ぎてまた十日に明るい



ナナト帯州帯州北極、プリンスフィヨルドの海氷

【巻頭グラフ】 「極北の生命〜ホッキョクグマ」 浅尾省五

動物写真家として知られる浅尾省五氏による、ホッキョクグマのグラフエッセイ。長年、北極圏や南極などを訪れ野生動物たちを追い続ける写真家がとらえた、心温まるホッキョクグマの親子の姿や、海流に乗って流れ着く漂着物で遊ぶクマの様子など。極寒の地に生きるホッキョクグマたちの命の鼓動が感じられる作品です。



この写真撮影は、親子のホッキョクグマが、子育ての途中、雪の下で寝ている様子。親子の姿が、雪の下で、静かに眠っている。親子の姿が、雪の下で、静かに眠っている。親子の姿が、雪の下で、静かに眠っている。

地球上でもっとも寒い環境に生きるホッキョクグマは、北極圏での食糧の不足に悩む気候変動である。しかし、地球温暖化による北極圏の環境変化で、ホッキョクグマの生息環境は大きく変化している。餌には対応できず、餓死の恐れがある。ホッキョクグマの生息環境は大きく変化している。餌には対応できず、餓死の恐れがある。ホッキョクグマの生息環境は大きく変化している。餌には対応できず、餓死の恐れがある。

【北極圏の本棚スペシャル 特別寄稿】 「今、ホッキョクグマたちに何が起きているのか？」 エドワード・シュトルジック

『北極圏大異変』の著者による北極圏の最新レポート。35年にわたり北極圏を取材してまとめあげた著書と、レポートから見えてくる野生動物たちに迫りくる危機。必読です。



今、ホッキョクグマたちに何が起きているのか？
エドワード・シュトルジック

北極圏の環境は、急速に変化している。氷河の融解、海氷の減少、気候の温暖化。これらは、北極圏の生態系に深刻な影響を与えている。特に、ホッキョクグマの生息環境は、大きく変化している。餌には対応できず、餓死の恐れがある。ホッキョクグマの生息環境は大きく変化している。餌には対応できず、餓死の恐れがある。ホッキョクグマの生息環境は大きく変化している。餌には対応できず、餓死の恐れがある。

【SINRAの旅スペシャル】

カナダ建国 150 周年

「極北の大地に生命が燃える」

芦原 伸

ホッキョクグマの首都と呼ばれるカナダのチャーチル。そこを拠点に、イヌイットが暮らす町を訪れ、ホッキョクグマと人々との関係や、その暮らしなどを本誌統括編集長が取材。極北に生きる人々の知恵、ホッキョクグマをはじめとする生態系の変化の状況など、環境問題を身近に感じさせるルポ。



【それぞれの北極圏グラフ】

「氷原の彼方に～星野道夫が見た北極圏の命」

アラスカの自然とそこに生きる動物たちを愛した星野道夫。彼の深いまなざしでとらえた北極圏の美しくもたくましい命の輝きをスペシャルグラフで綴ります。



【北極圏とホッキョクグマのカルチャー】
「ホッキョクグマと北極圏を知るQ&A」

ホッキョクグマの生態や特徴を図解で解説。ホッキョクグマと北極圏に関する素朴な疑問をQ&Aで解説。ホッキョクグマの毛は透明？、北極圏とはどこを指すのかなど、あらためてなるほどのなトリビア満載です。

Q 海洋生態系に分類されるのはなぜ？

A 海洋生態系とは、海を舞台にした生態系のこと。ホッキョクグマは、氷上で生活する哺乳類であるが、その食料のほとんどは海洋生態系に属する動物（アザラシや魚類）からとっている。そのため、海洋生態系に分類される。

Q なぜ毛が白いのか

A ホッキョクグマの毛は、実は透明で無色である。毛の断面が中空になっており、光の反射によって白く見える。これは、北極圏の雪や氷の環境に合わせた適応である。

Q 体の保温性

A ホッキョクグマは、極寒の環境に生きるため、非常に優れた保温性を持っている。その毛は、中空の構造によって断熱効果が高く、体温を逃がさない。また、皮下脂肪も厚く、保温に役立つ。

Q ホッキョクグマの子育ては？

A ホッキョクグマは、1匹の子を産む。子育ては、氷の上で行われる。母親は、子に母乳を授け、氷の隙間に穴を開けて、子を守る。子育て期間は約2年続く。

Q ホッキョクグマに天敵はいるのか？

A ホッキョクグマは、自然界では天敵がほとんどいない。人間による狩猟が最大の脅威である。また、近年は気候変動による氷の減少も、生存に大きな影響を与えている。

Q ずんどうツメ

A ホッキョクグマは、氷を歩くための鋭い爪（ツメ）を持っている。これは、氷を踏み分けたり、氷の表面を滑らせないために役立つ。

Q 身長・体重

A 大人のホッキョクグマの身長は約2.5メートル、体重は約600キログラムに達する。これは、極寒の環境で生き残るための適応である。

Q 氷上・氷上に適した足

A ホッキョクグマの足は、氷の上を歩くのに最適化されている。足の裏には、氷を滑らせないための突起があり、氷を踏み分けやすい構造になっている。

Q なぜ個体数が減っている？

A ホッキョクグマの個体数は、近年急速に減少している。主な原因は、気候変動による氷の減少、人間による狩猟、そして海洋生態系の変化による食料不足である。

ホッキョクグマと北極圏を知る Q&A

■その他の企画

【森羅万象エッセイ】

- ◆谷川俊太郎「一粒の砂に」
- ◆たかのてるこ「いつか死ぬのも楽しみだ！」
- ◆小林照幸「ハブと世界自然遺産」

【連載エッセイ】

玉村豊男「田園遊歩」
椎名 誠「ぼ・く・ら・は・み・ん・な・い・き・て・い・る」

【グラフ連載】

吉野 信のField Report
「溪流のハンター ササゴイ」

【北海道スペシャル企画】

「グランピングで味わう十勝の恵み」

近年ブームとなっている、グラマラス+キャンプの造語“グランピング”という新しい旅、レジャーのスタイル。自然豊かな北海道・十勝ならではの楽しみ方を紹介。いつものキャンプや宿とはひと味違った魅力を気の合う仲間とともに堪能してはいかが。



「静謐の森に癒される グランピングリゾート」

中札内農村
休暇村
ファミリー
リゾート

「静謐の森に癒される グランピングリゾート」は、北海道中札内農村休暇村ファミリーリゾートの一角に位置する。自然豊かな環境の中で、家族みんなで楽しむことができる。アウトドアの楽しみも豊富で、乗馬体験やラフティング、熱気球など、雄大な自然を舞台にした十勝ならではの“野遊び”も楽しめる。

中札内農村休暇村ファミリーリゾートは、北海道中札内農村に位置する。自然豊かな環境の中で、家族みんなで楽しむことができる。アウトドアの楽しみも豊富で、乗馬体験やラフティング、熱気球など、雄大な自然を舞台にした十勝ならではの“野遊び”も楽しめる。

【SUVスペシャル企画】

「スマートSUVで3倍広がるライフスタイル
清水国明インタビュー “SUV的” 生き方のすすめ。」

アウトドアの達人として知られるタレントの清水国明氏を迎え、SUV（スポーツ・ユーティリティ・ヴィークル）で遊ぶ、スタイリッシュ&スポーティな車の魅力を紹介。遊び方、ドライビングや出かけるエリアも広がる、これからの季節に頼もしい万能ビークルで楽しみましょう。

「森羅万象」は、自然の不思議な現象や動物の習性などを紹介する雑誌です。今回は、北極圏の動物や植物について詳しく紹介します。

「SINRA」は、自然の不思議な現象や動物の習性などを紹介する雑誌です。今回は、北極圏の動物や植物について詳しく紹介します。

スマートSUVで 3倍広がる ライフスタイル

都会の道ではスタックラックに
荷物、川ではびたせ釣り、キャンプで
SUVはボート・クーラー・椅子・ワイヤールーフで
すべてここへ詰め込んでみようか……

“SUV的” 生き方の すすめ。

清水国明 インタビュー



清水国明（1951年）は、作家、編集者、ジャーナリスト。『SINRA』の編集長を務める。著書に『SINRA』、『SINRA』、『SINRA』などがある。



【イベントのご案内】

★京橋エドグラン・京橋縁カレッジ★

「大人の森羅万象学」第2回 ホッキョクグマを救え！（仮）

統括編集長対談 芦原伸 × あん・まくどなど

8月24日（木）19：00～20：30 参加費 2000円

SINRA 統括編集長・芦原伸と本号案内人のあん・まくどなどさんによる北極圏とホッキョクグマをテーマとした対談を開催します。アフターファイブに森羅万象をテーマに遊び学ぶ講座です。参加ご希望の方は下記HPよりお申込みください。

http://www.kyobashi-en-college.tokyo/class_sinra.html

【目次紹介】

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 132 | 128 | 110 | 97 | 92 | 86 | 78 | 72 | 64 | 62 | 52 | 58 | 42 | 44 | 70 | 72 | 76 | 34 | 30 | 28 | 22 | 2 |
| マイク・愛木のバイライフ Vol.3 | SINRA 統括編集長特別対談 ● 芦原伸 × 東雅夫 | SINRA 統括編集長特別対談 ● 芦原伸 × 東雅夫 | 大人の森羅万象学 第2回 ホッキョクグマを救え！（仮） | カナダ知られざる北極圏の物語 著者 清水国明 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 | 選者 吉野 信の「Red Arctic」 |
| 144 | 143 | 142 | 141 | 140 | 138 | 136 | 134 | 11 | | | | | | | | | | | | | |
| 森羅万象編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 | SINRA 編集部 |



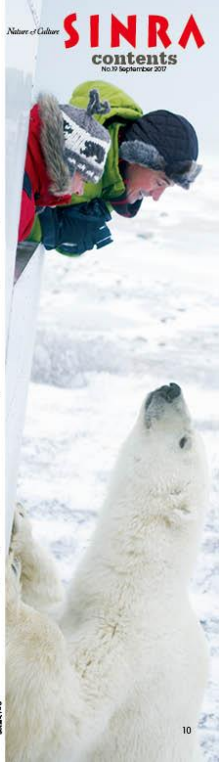
【特別】
今号を待って北極圏探検隊が、北極圏の動物や植物について詳しく紹介します。

34 SINRAの旅
カナダ建国150周年
極北の大地に生命が燃える 芦原伸

52 氷原の彼方に 星野道夫が見た北極圏の命
58 北極圏を犬ぞりで走る 木多有香
62 追憶の晩夏 藤田月
64 危機に瀕する極北の生態系 藤原幸一
70 北極圏の温暖化メカニズム
72 ホッキョクグマと北極圏を知るQ&A
76 ホッキョクグマに会いに行こう！ 全国動物園水族館ガイド

22 あんまくどなどと北極圏地の果ての四季
人は亡命できるが、動植物は逃げられない。
28 あんまくどなどと「選」北極圏の本棚
30 北極圏の米熊スシヤル・モルド・シトシク
今、ホッキョクグマはなに何か起きているのか？

2 SINRA Japan 5周年
極北の生命 ホッキョクグマ 浅尾香五



特集 ホッキョクグマを救え！

【株式会社天夢人】 <http://temjin-g.com/>

2007年設立。現在『旅と鉄道』（発売：山と溪谷社）と『SINRA』（発売：新潮社）の2誌を発行しています。歴史や民俗、鉄道や文化遺産、食文化や音楽などを見聞き、伝える雑誌や書籍を発行・編集し、豊かな人生をおくるための生活情報を発信していきます。

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>



株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。2017年4月1日に創設25周年を迎えました。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当：野口／武田

Tel: 03-6413-8755 / E-mail: noguchi@temjin-g.com

URL: <http://temjin-g.com>